

杉並ユネスコ協会会報

154号

2025年
3月31日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

特集 原爆・核兵器と平和……………2	韓国スタディーツアー……………6
新年会／科学教室……………4	中学生クラブ……………7
都ユ連研修会……………5	平和のためのポスターコンクール他／活動予定・8



戦後
80年
核のない未来へ

オスロのノーベルピースセンターでの「人間性へのメッセージ」展より。仏写真家ダガタが24年11月に撮影した被爆者の老いてなお凜とした表情に胸を打たれる。

原爆・核兵器と平和



被団協のノーベル平和賞受賞が私たちに問うこと

今、高齢の被爆者の方々は、ノーベル平和賞受賞を新たな取り組みのスタートにしようと思いを新たにしています。私たちも被爆80年の今年、原爆が何をもたらしたのかを改めて振り返り、今と未来を考える年にしなければと思います。

広島・長崎の惨禍にもかかわらず、米国とソ連（その後ロシア）は核軍拡競争を続け、80年の間に核兵器を使おうとしたことが何度もありました。指導者が自制したのは、「核兵器使用は道徳的に許されない」という「核のタブー」が市民社会に根付いたからです。それを生み出したのは、「同じ苦しみを誰にも味わわせない」という被爆者の心からの訴えです。しかし今、核戦争の危機はかつてないほど高まっています。この現実に対して、世界の指導者は被爆者の声に耳を傾けるべきだ、という強いメッセージをノルウェー・ノーベル委員会は発したのです。さらに被爆者がまもなくなくなる今、その思いを受け継ぐのはすべての人間の責任だ、と世界の人々に訴えたのです。

被団協代表委員の田中照巳さんが受賞講演で語られたように、今も米国とロシアは地球を何十回も破壊するそれぞれ2千発の核ミサイルを即時発射可能な臨戦態勢に置いています。一人の政治家の意思で、あるいはAIや機器の誤作動で、一発でも発射されれば、相互の応酬で世界が破滅する危機が依然続いているのです。

私たちは長い間その危険性に目を閉ざし、あるいは「核の傘」の下にいれば安心だと錯覚してきました。しかし「核の傘」は私たちを守るものではなく、相手が攻めてきたら核兵器で攻撃するという脅しなのです。脅しが現実になれば、相手も日本も核で焦土になり、そこに勝者はありえません。このような危うい世界を私たちは子どもたちに手渡すのでしょうか。

田中さんはまた「日本政府は国家補償を拒み、原爆で

亡くなった死者に対する償いは全くしていない」と語られました。戦争を始め、泥沼へと拡大したのは軍国主義の下の政府でした。その結果、兵士と共に多くの民間人も亡くなりました。しかし国は、原爆や空襲の死者には、国民が等しく受忍すべきものとして一切補償していません。二度と繰り返させないために、原爆を投下した米国の責任と戦争を起こした日本政府の責任を問う、それが1956年の日本被団協結成の原点でした。今、この「受忍論」という棄民政策を問い直すことは、子どもたちが戦争に動員されない社会を築くためでもあるのです。

今年、被団協は世界での証言運動を計画し、新年早々フランスとスペインで高齢の被爆者が学校などで話されました。2月には、被爆者・市民・若者による「核兵器をなくす日本キャンペーン」が聖心女子大で「核兵器をなくす国際市民フォーラム」を開催し、世界から参加した核実験被害者らと核廃絶にむけた取り組みを通して交流しました。3月には、国連本部で開催された核兵器禁止条約第3回締約国会議に被爆者と共に高校生や大学生も十数名参加しました。被爆者の思いを受け継ぐと日本の若者たちも世界とつながり動き出しています。

この締約国会議に参加した86カ国は、「二極化が進む国際環境は、核兵器使用の危険を激化させている。いかなる国家も人類の存在を脅かす権利はない。核兵器の廃絶は願望ではなく、世界の安全保障と人類の生存にとって必須だ」と宣言しました。今、大国が公然と国際法を踏みこむ一方で、核なき世界をめざす国々と市民が増えていきます。残念ながら日本政府は今回もオブザーバーとしても参加しませんでした。核廃絶のイニシアチブをとるべき被爆国として情けなく思います。この政府の姿勢を変えさせることこそ、私たち被爆国の市民の責任であり、被爆者の願いを受け継ぐことだと思います。

(理事 小寺隆幸)

後世に語り継ぐために 杉並ユネスコ協会の取り組み

杉並ユネスコ協会は、1951年6月、日本が国連のユネスコに加盟したのを契機として、同年9月に都内初の民間ユネスコ団体として発足しました。その2年半後、1954年3月にはビキニ環礁でアメリカによる水爆実験があり、第五福竜丸が被ばくしました。その事件を受けて、杉並区では水爆実験反対と漁業関係者への補償を求めて署名運動が始まりました。署名運動は全国的な広がりを見せ、1954年8月には原水爆禁止全国協議会が結成され、翌年には原水爆禁止世界大会が開催されます(※)。

同じ杉並区で原水爆の反対運動が起こったことから、杉並ユネスコ協会はこれまで原爆・核兵器について強い関心をもって活動してきました。近年では、第五福竜丸事件を扱った催し(2020年11月と2023年9月のバスツアー、2021年3月の音楽朗読劇、2024年9月のシンポジウム)や、原爆と戦争被害を扱った催し(2021年11月のバスツアー)などを開催しています。2025年6月にも、「原爆の図 丸木美術館」を訪れ、被爆直後の広島の人々を描いた「原爆の図」を鑑賞するバスツアーを予定しています(詳しくは8頁目をご覧ください)。

また、原爆被害を若い世代に伝えるための活動として、毎年3月に青年部主催の「広島スタディーツアー」を開催しています。1999年から始まったこのツアーは、のべ300名を超える青年たちに被爆の実態を伝え続けてきました。とくに被爆者の方から直接体験談を聞くことを大事にし、元広島平和記念資料館館長で日本被団協代表理事も務めた高橋昭博さん(1931~2011年)をはじめ、多くの被爆者の方から当時の凄惨な様子やその後の後遺症についてお話をうかがいました。青年たちは皆一様にショックを受け、戦争の悲惨さをより強く意識するようになっていきます。

このように「語り継ぐ」ことを意識した活動を続けていますが、ここで改めて「語り継ぐ」とは何かを考えたいと思います。原爆の映像や写真、録音された被爆者の語りを見聞きし、それらを周りに紹介することも「語り継ぐ」ことと言えますが、本当に「語り継ぐ」とは、被害者の痛みや苦しみ、悲しみ、怒りといった感情を共有し、周囲にも共有してもらうことではないでしょうか。原爆・核兵器の被害を知識として知っているだけでは、反核運動などの行動には結びつきません。核への怒りや恐怖といった感情が行動に駆り立てるのです。

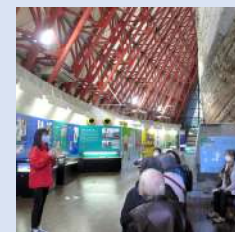
感情を共有するためには、被爆者や被爆者を描いた作品などの「本物」と直接向き合う必要があります。「本物」から伝わってくる感情を受け止め、理解し、共感し、それを今度は自身の感情として周りに伝えていくのです。原爆・核兵器を使用すればこの世は地獄と化し、数えきれないほどの人々が想像を絶する苦痛や悲しみを味わいます。その心の痛みを多くの人々の間で共有し、核を保有する者に強く自制を促していくことが求められます。

核廃絶に至る道は決して平坦ではありません。挫折感を味わうことも多くあると思います。しかし、戦後80年が過ぎ、共感の輪は世界にむけて着実に広がっています。その証しが、日本被団協のノーベル平和賞受賞なのです。この大切に受け継がれてきた核廃絶の運動を、決して止めてはなりません。(理事 岩野智)

※ビキニ水爆実験と杉並区の原水爆禁止署名運動について、詳しくは2024年9月のシンポジウム(YouTube: <https://www.youtube.com/watch?v=aTAYm4hHdUg>)をご覧ください。



杉並ユネスコ協会 原爆・核兵器に関する近年の活動



①2020年11月11日 ユネスコ運動の日「平和を考えるバスツアー」 第五福竜丸展示館、東京大空襲・戦災資料センター、平和記念展示資料館 見学



②2021年3月14日 ユネスコのつどい/創立70周年記念「語りつなごう 私たちの平和」音楽朗読劇「くじらのこえ なみのこえ」上演



③2021年11月24日 ユネスコのつどい「平和を考えるバスツアー」原爆の図 丸木美術館、埼玉県平和資料館 見学



④2023年9月26日 ユネスコ運動の日「夢の島から学ぶSDGs バスツアー&第五福竜丸見学」 第五福竜丸展示館、東京都環境局中防合同庁舎・廃棄物理立処分場 見学



⑤2024年9月21日 ユネスコのつどい「ビキニ水爆実験とは 日本と世界への影響」ビキニ水爆実験に関する講演会、杉並原水爆禁止署名運動に関するパネルディスカッション



⑥毎年3月 青年部「広島スタディーツアー」 広島平和記念資料館、江田島旧海軍兵学校、宮島・厳島神社等 見学、被爆者体験講話





2025 年 杉並ユネスコ協会 新年会

1月26日(日) 産業商工会館



2025年1月26日は、杉並ユネスコ協会の新年会でした。今回は、ここ数年開催していた杉並会館から、阿佐ヶ谷の産業商工会館へ会場を移し、ケータリングでの食事を囲みつつ、和気あいあいとした雰囲気で開催されました。

行政からは、昨春就任された渋谷正宏教育長(杉並ユネスコ協会顧問)、本橋宏己様(杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課長)に、ご出席いただきました。また杉並など都内25団体が参加する東京都ユネスコ連絡協議会(都ユ連)関連の来賓として、渋谷ユネスコ協会・池田敬介会長(日本ユネスコ協会連盟理事、都ユ連監事)、港ユネスコ協会・永野博顧問(都ユ連会長)、朝日生命ユネスコクラブ・木間明子様(都ユ連事務局長)より、ごあいさついただきました。

2025年は、第2次世界大戦の終結から、80年の節目にあたります。しかしロシアのウクライナ侵攻や、イスラエル・パレスチナ紛争、そして米トランプ大統領の再登板により、国際情勢は不安定となり、「第3次世界大戦」の可能性すら指摘されています。

ユネスコ憲章は、前文で「戦争は人の心の中で生まれる」と表現していますが、私個人は「戦争のない社会を作るのも、また人の心だ」と考えています。「ユネスコ」もしくは「杉並」の共通点はあれども、世代も職業も異なる参加者同士が顔を見合わせて、互いの平和について共有する。先が見えない今だからこそ重要な「対話」が持つ価値を再認識しました。(理事 城戸眞)

都ユ連研修会・都ユ連青年研修会

2月23日(日・祝) 阿佐谷地域区民センター



2024年度の都ユ連研修会は、「戦後80年を迎えて、『平和』と『これからのユネスコ活動を考える』」をテーマに、都内21の協会・クラブから90名を超える参加者のもと開催された。この研修会は東京都ユネスコ連絡協議会(都ユ連)が、ユネスコの理念である平和の文化構築に向けて毎年実施しており、杉並ユネスコ協会からも多くの人が参加し、運営にも携わっている。今回は、今後のユネスコ活動について具体的な活動を考え、より有意義な研修会となった。

開会挨拶で、永野博会長が「平和は必ずしも戦争の対語とは言えない。平和には広い意味のコンセプトがある。あなたにとっての平和は何か?」と言及された。

挨拶に続いて、3つの報告が行われた。



続く全体会では、まず、3つの協会から「平和と今後のユネスコ活動」に向けての実践報告と提案が行われた。

- テーマ1 【教育・文化の視点から平和を考える】
新宿ユネスコ協会
- テーマ2 【平和の構築に向けた国際理解】
港ユネスコ協会
- テーマ3 【被爆・戦争と平和】
中央区ユネスコ協会

プレゼンテーションに続き、参加者はテーマごとに9つのグループに分かれ、平和の実現のために何ができるか、具体的なアクションを考えるため討議し、模造紙に各グループの提案をまとめ、それぞれ結果発表を行った。

提案されたアクションは、●世界をつなぐシルクロードプロジェクト、●折り鶴プロジェクト、●広島・長崎・沖縄ツアー、●被爆・戦争体験の次世代への伝承、●草の根国際交流、●次世代人材を育てる支援、●ユネスコ甲子園、●人類共通の福祉、●ユ協共同の活動、など多岐に渡った。これらのアクション案は、今後「次につながる会」にて具体的に検討され、実践へと繋げていく計画である。

年一回の都ユ連研修会ではあるが、他地区ユネスコ協会・クラブとの情報交換や交流の中で、次のユネスコ活動を共に創りあげていくための素晴らしく有意義な時間を共有できた。(理事 水上あつ子)

①青年・学生活動報告

同日、午前中に開催された青年・学生研修会では、各団体の活動報告に加えて、玉川大学と青山学院大学共同で実施されたパリのユネスコ本部スタディーツアーの報告があった。また、「ユネスコ教育勧告」に基づいたカード型教材を活用したワークショップも行われた。

②次世代ユネスコ国内委員会報告

西野月委員(杉並ユネスコ協会)から、多様なステークホルダーとの連携・協働、ユースフォーラム開催による繋がりの強化など、ユースの幅広い取り組みについて報告された。国際会議への派遣や各国ユースとのディスカッション、WEB発信やSNSを活用した知名度向上の取り組み等は、次世代ならではの活動。

③都ユ連2000人プロジェクト報告

木間明子事務局長(2000人プロジェクトアクションリーダー連絡調整会)より、11のアクション進捗状況と、ユネスコ非会員が気軽に参加できる仕組みにより会員増への期待が語られた。本プロジェクトは、2025年度から第Ⅱ期のスタートを迎える。

ユネスコ 科学教室 ドクターミーの爬虫類教室 今年もヘビ!

3月2日(日) IMAGINUS(イマジナス)
「第10回すぎなみサイエンスフェスタ」に出展
講師 富田京一氏 参加者延66名



今回のスペシャルゲストは、今年の干支のヘビ。先生は、お持ちくださったヘビを見せながら、「虫」はヘビの形を字にした象形文字、もとはヘビを指すものであったなど、ヘビにまつわるお話も織り込みながら、ヘビの生態、体の仕組み、他の生物との違いなどを解説してくださいました。

世界には3900種類のヘビがいます。そのうち25%が毒ヘビ(1000種類弱も!!)とのこと。ヘビは鎖骨がないために、自分の頭より大きい食べ物を食べることができるのだそうです。毒ヘビというと真っ先に頭に浮かぶのはハブやマムシですが、実はそれよりも強い毒を持ったヘビが身近にいることを知りました。その名はヤマカガシ! 小さいのに3種の中で一番強い毒を持っているそうです。これから暖かくなって山や野原に出かける時に

役にたつお話も伺うことができました。

子どもたちは食い入るようにヘビを見、お話を耳を傾けていました。先生のお話が終わると、ヘビに触れ合う子どもたちで会場は賑やかでした。また、夢中になっていたのは子どもだけでなく親御さんや、毎年来てくださるリピーターの方の姿もありました。

今年のスペシャルゲスト	
ヘビ	ボールニシキヘビ、サキシママダラ、シマヘビ、セイブシシバナヘビ、サンビームヘビ
ヘビに似たトカゲ	メラウケアオジタトカゲ、バルカンヘビガタトカゲ

(副会長 山田正)



青年部 第12回 韓国スタディーツアー

2024年12月27～30日 韓国ソウル特別市ほか

2024年12月に久しぶりの実施となる韓国スタディーツアーが開催されました。

杉並ユネスコ協会では、青年部主体の「韓国スタディーツアー」を2006年以降、ほぼ毎年実施していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、ここ数年間中断していました。

今回は、パンデミックが落ち着いたことや、非常に積極的な青年部メンバーが多く在籍していたことなど、様々な要因が重なり、実施することができました。

今回の韓国スタディーツアーは12月27日～30日の3泊4日で実施され、学生7人・大人4人の合計11人が参加しました。学生7人のうち4人が高校生であり、全体の年齢層も非常に若いスタディーツアーとなりました。

韓国スタディーツアーの目的は、「近くて遠い国」である韓国において、現地学生との交流や非武装地帯(DMZ)見学を通じた平和学習と異文化理解を深めることです。

積極的なメンバーが多かったことに加え、ほとんどの参加者が英語を話すことができたため、例年に劣らず学びの多いスタディーツアーになったと感じています。

以下では、今回の韓国スタディーツアーについて、訪問先の様子を簡単にご紹介します。

全体のスケジュール	
1日目	ソウル到着
2日目	韓国ユネスコ協会連盟(以下、韓国ユネスコ)の青年たちとのディスカッション、交流・景福宮見学
3日目	DMZバスツアー、西大門刑務所歴史館見学
4日目	帰国



2日目に実施した韓国ユネスコの青年たちとのディスカッションでは、いくつかのグループに分かれて意見を交わしました。

韓国ユネスコの青年たちは幅広い年齢層の方が参加し、杉並ユネスコメンバーと交流しました。

このディスカッションは杉並ユネスコ協会の参加者から、最も期待しかつ不安を抱えている内容、という声も聞こえたほどのメインイベントでした。

実際のディスカッションでは日韓の文化や慣習、教育や徴兵制度などについて幅広く意見を交わし交流することができました。

特に徴兵制度については、ほとんど同じ年齢の韓国ユネスコの青年たちが今後1年以上も軍隊に入隊しなければならないという現実があり、それを改めて実感した参加者が多くいました。

いまだに南北朝鮮が「停戦中」であるという現実を感じさせると同時に、今までどこか他人事であった戦争について一番考えさせられる瞬間でした。

ディスカッションだけでなく、その後の交流会を兼ねた昼食も共にし、一部の参加者は景福宮(朝鮮王朝時代の王宮)も一緒に見学しました。

参加者それぞれが韓国ユネスコの青年たちと会話を重ね、交流を深めることは、異文化理解の最たるものだと思います。

3日目には、北朝鮮との国境沿いにある非武装地帯「DMZ」へバスで向かいました。DMZは、韓国と北朝鮮の国境線から南北2kmずつ設定されており、一般人の出入りが制限されています。

このバスツアーでは、臨津閣公園や自由の橋、第三トンネルなどを見学しました。

臨津閣公園に残されている機関車には、朝鮮戦争の生々しさを感じさせる無数の弾痕が残っており、戦争の激しさを実感しました。それぞれの弾痕の大きさは、大人の指1本が容易に入るほどです。



鉄製の列車に無数に残るその痕跡は、「戦争」という漠然とした概念を、現実のものとして強く印象付けました。

また、第三トンネルも見学しました。第三トンネルは北朝鮮が韓国を侵略する目的で掘削したもので、1978年に発見されました。これまでに発見された4つのトンネルのうち、ソウルから最も近く、約52kmしか離れていません(東京から高尾までの距離に相当)。

トンネル内は撮影禁止であり、手荷物の持ち込みも一切禁止されています。さらに、すぐ後ろには迷彩服を着た軍人がいるなど、南北の緊張感を間近で感じました。

このような緊張感がある一方で、DMZバスツアー全体を通じて観光客の多さに驚かされました。特に欧米圏からの観光客が多く、DMZ内には土産物店やカフェもありました。そのため非武装地帯というセンシティブな場所が、観光スポットとして人気を集めていることに違和感を覚えました。

3日目の最後には、西大門刑務所歴史館を訪れました。西大門刑務所は、旧大日本帝国によって建設され、日本統治時代に実際に使用された刑務所です。

韓国の独立を求めて闘った多くの独立運動家が投獄され、弾圧されました。現在は一部の施設が保存・復元され、歴史館として公開されています。

展示内容は、「加害者としての日本」と「被害者としての韓国」を強調するもので、日本では自ら学ばなければ知る機会のない歴史が紹介されています。

あまりにも惨たらしい内容とリアルな展示に、参加者の表情も暗くなり、涙を浮かべる者もいました。

実際に拷問を受けた人々の家族は何を思ったのか、何も知らなかった人がこの展示を見たら何を考えるのか——それぞれが言葉にはせずとも深く考えていました。

現在もロシア・ウクライナ戦争をはじめ、同様の惨事が世界のどこかで起きています。その現実を想像すると、改めて世界平和について深く考えさせられます。

今回の韓国スタディーツアーでは、参加者一人ひとりが改めて平和や国際理解について考え、自分の中に落とし込む貴重な機会となりました。

また、2月の中学生クラブでは、韓国スタディーツアーについて、参加者が感じたことや学んだことを報告しました。

今回の学びを個々の経験にとどめるのではなく、共有し、発信することで、人々の心に平和の誓いを築くことができるのではないかと感じています。

この学びを一過性のものとせず、後輩へと伝え続け、世界平和の実現に向けた活動を絶やさぬよう努力していきたいと思います。(青年部 河合城太郎)



12月21日 イヤーエンドパーティー



1月11日 日本文化(落語)



2月8日 韓国スタディーツアー報告



3月15日 3年生を送る会

ユネスコ
中学生クラブ
国際理解と英会話

告知

ユネスコのつどい 「平和を考えるバスツアー」

2025年6月18日(水) 8:30~17:30
※集合・解散はセシオン杉並



被爆直後の広島の人間の姿に向き合う場である「原爆の図 丸木美術館」、埼玉県内最古の古民家「吉田家住宅」、和紙の里小川町の「埼玉伝統工芸会館」を訪問し、戦争と平和、そして伝統文化について理解を深めます。

- 対象 区内在住・在勤・在学の方ほか(小・中学生も可)
- 定員 30名(先着順) ●参加費 4500円(入館料、昼食代を含む)

※詳細は「広報すぎなみ」5月15日号(予定)をご覧ください。

報告

平和のためのポスターコンクール 表彰式

主催:杉並区 共催:杉並区教育委員会・杉並ユネスコ協会

2024年12月11日(水) 杉並区役所



戦争と平和をテーマにしたポスターコンクールが開催され、718点の応募のうち、小・中学生それぞれ15点が表彰されました。受賞作品では、多様な人々が仲良く共存していたり、オリンピックと戦争を対比させていたり、何気ない日常の中に平和を見出していたりと、深く考えられた作品を多く目にする事ができました。(理事 岩野智)

報告

第156回 日本ユネスコ国内委員会総会

2025年3月11日(火)

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の加盟194か国は、各政府内に「ユネスコ国内委員会(※)」を設置し、国内のユネスコ活動を活性化させる役割を担っています。日本では文部科学省に設置されており、3月の総会では、国内外の多岐に渡る取組からユースの活動報告、2026年に迎えるユネスコ発足80周年と日本のユネスコ正式加盟75周年行事などの報告・審議が行われました。

ユネスコは教育・科学・文化を通じて相互理解し、平和で持続可能な社会を創ることを目標としています。しかし、非常に幅広い活動を展開しているため、その取組が広く伝わっていないと感じます。日本の法律にも定められているユネスコ活動を、少しずつお伝えしていきたいと思えます。(副会長 西野裕代)

※文部科学省の特別機関である日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコ直属の機関ではありません。

編集後記

終戦から80年の節目に、第二次トランプ政権が始動しました。世界の平和と発展を支えてきた国際秩序が大きく揺らぐ中で、日本はどう向き合うのでしょうか。もはや対岸の火事ではなく、私たち一人ひとりが考えなければならぬ過渡期を迎えています。(副会長 西野裕代)

ウクライナ戦争が停戦にむけて動き始めました。領土問題など課題は多く残されていますが、まずはこれ以上犠牲者を出さないよう、戦闘行為を中止することが先決です。領土は返ってきますが、命は返ってきません。(理事 岩野智)

告知

ユネスコ運動の日 宇宙に関する講演会

2025年7月13日(日)
セシオン杉並 講座室

- 講師 的川泰宣氏
(JAXA名誉教授、はまぎんこども宇宙科学館館長)

小惑星からサンプルを持ち帰る「はやぶさ」プロジェクトのメンバーであった的川泰宣さんをお招きし、宇宙の魅力についてご講演いただきます。

また、宇宙工学を専攻し、ロケット開発に長く携わってこられた経験から、現場の様子ややりがい、宇宙への思いについてもお話しいたします。

※詳細は、今後の「広報すぎなみ」やチラシでお知らせする予定です。
※内容は変更になる場合があります。

活動予定

3月 March

- 2日(日) 科学教室
- 7日(金) 理事会
- 15日(土) 中学生クラブ
(3年生を送る会)
- 26日(水)~ 広島スタディーツアー
- 29日(土) (青年部)

4月 April

- 1日(火)~ 国際中学生交歓会
- 2日(水) (セントメリーズ校訪問)
- 4日(金) 理事会
- 12日(土) 中学生クラブ
(ユネスコ紹介と英会話)

5月 May

- 9日(金) 理事会
- 10日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)
- 18日(日) 杉並ユネスコ協会総会

6月 June

- 6日(金) 理事会
- 14日(土) 中学生クラブ
(スポーツ大会)
- 18日(水) 平和を考えるバスツアー

7月 July

- 4日(金) 理事会
- 5日(土) サマーコンサート
(杉並ユネスコ合唱団出演)
- 12日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)
- 13日(日) ユネスコ運動の日
宇宙に関する講演会

杉並ユネスコ合唱団練習 ※は予定

- 3月13日(木) 3月27日(木)
- 4月10日(木) 4月24日(木)
- 5月8日(木) 5月22日(木)
- 6月12日(木) 6月26日(木)
- 7月3日(木)※

杉並ユネスコ協会会報 154号 2025年3月31日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻2-34-10 山田正方

TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号10040 番号18974381 (ゆうちょ銀行間での振込)

店名〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438 (他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>